

愛媛県宇和海より得られた台湾アイノコイワシ

清水孝昭¹・渡邊昭生¹

¹ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター



写真1 *Engraulis punctifer* 台湾アイノコイワシ (TKPM-P 24162, 66.1mm SL)

種の記録

Engraulidae カタクチイワシ科

Engraulis punctifer Fowler 1938

台湾アイノコイワシ(写真 1)

標本 徳島県立博物館魚類標本 (TKPM-P) 24162, 1 個体, 標準体長 (SL) 66.1mm, 2024 年 9 月 5 日, 宇和島市遊子 (美地島沿岸). 24163, 5 個体, 44.0–51.5mm SL, 2024 年 11 月 8 日, 宇和島市吉田町 (吉田湾).

種の特徴

体は細長く側扁する。口は吻端に位置する。上顎は下顎より突出し、吻端はやや丸みを帯びる。主上顎骨は短くて後端は尖らず、前鰓蓋骨後縁に達しない。体側に太い 1 銀色縦帯がある。胸鰭から腹鰭にかけての腹側に稜鱗がある (不明瞭なものもある)。背鰭基底後端は臀鰭起部より前に位置する。尾鰭後縁は二分する。背鰭 12–14 条, 臀鰭 12–15 条。

備考

標本個体のうち 24163 の 5 個体中 3 個体は腹部が破損しており、稜鱗が確認できなかったが、それ以外の上記特徴が青沼・柳下 (2013) の台湾アイノコイワシに一致することから、今回の標本をすべて本種と同定した。本種は国外ではタイ・プーケット島からハワイ、および仏領ポリネシアに至るインド・太平洋に分布し (Hata and Motomura, 2016), 国内においては神奈川県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸、豊後水道、瀬戸内海、琉球列島および沖ノ鳥島から記録されている (畑・本村, 2018; 鈴木, 2024; 大美・木村, 2024; 指田ほか, 2025)。愛媛県からは登録標本に基

づく初記録となる。個体はいずれも小型まき網により、カタクチイワシ *Engraulis japonica* Temminck and Schlegel に混じって漁獲された。

引用文献

- 青沼佳方・柳下直己. 2013. カタクチイワシ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, 東海大学出版会, 秦野. 302–304, 1812–2067.
- Hata H, Motomura H. 2016. Two new species of the genus *Engraulis* (Clupeiformes: Engraulidae): *E. intermedia* from the western Indian Ocean and *E. gloria* from the Persian Gulf, Red Sea and Mediterranean. *Raffles Bulletin of Zoology*, 64: 79–88.
- 畑 晴隆・本村浩之. 2018. カタクチイワシ科魚類台湾アイノコイワシの志布志湾からの確かな記録. *Nature of Kagoshima*, 44: 333–340.
- 大美博昭・木村祐貴. 2024. 大阪湾初記録となる台湾アイノコイワシ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 46: 11–14.
- 指田 穰・渋谷駿太・河野悌昌. 2025. 大分県沿岸のシラス漁で採集された台湾アイノコイワシとカタクチイワシの仔稚魚の識別. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 60: 20–29.
- 鈴木聡志. 2024. 近年の太平洋沿岸における台湾アイノコイワシの出現状況. *黒潮の資源海洋研究*, 25: 3–6.
(2025 年 11 月 20 日受付, 2025 年 11 月 21 日公開)

清水孝昭 (e-mail: simizu-t@sky.hi-ho.ne.jp)

(Takaaki Shimizui, Akio Watanabe. 2025. New record of *Engraulis punctifer* (Engraulidae) from Ehime Prefecture. *NS Fieldnote*, 25034)